

新型コロナ対策における 感染拡大防止と経済活動

向殿 政男 Masao Mukaidono

明治大学 顧問、名誉教授

新型コロナ（COVID-19）の蔓延が、世界を揺るがしている。この問題を安全の観点から考えてみたい。

両立の問題

職場における安全は、身体のけが等の災害の問題から、身体的にも精神的にも健やかに生活する健康の問題へ、さらには、生き生きとやり甲斐をもって仕事に打ち込めるようにするウェルビーイング（wellbeing：幸福）の問題へと、その守備範囲を広げつつある。新型コロナ感染拡大問題は、人間の生命にかかわる問題であり、かつ、健康・幸福にも関係し、明らかに安全の守備範囲に入る。

我が国はもちろんのこと、世界的にも、新型コロナ対策において、感染拡大防止を優先すべきか、社会経済活動を再開して経済を維持すべきかが大きな問題となっている。感染拡大防止活動と経済活動の再開の両立の問題は、モノづくりにおける安全性と生産性との両立にも似ているような気がする。感染防止（安全性）の利益と経済活動（生産性）の利益が対立する単なるコンフリクトの構図とみなすと、究極は、「何を重視するか」という価値観の問題に

行きつく。しかし、確かに、両者ともバランスの問題であるということに間違いはないが、もう一つ重要なことに、両者には、価値観に基づき、施すべき対策に順番があるということを言いたい。

施すべき対策の順番

新型コロナ対策の場合、このコロナウイルスをゼロにすることはできないと考えるのが自然であろう。インフルエンザが、毎年流行するように、このウイルスは生き残り、変異しながら、人類と共生することになるのだろう。インフルエンザと最も異なるのは、現時点でワクチンや予防薬が存在していないことである。

このウイルスの場合、いったんかかると免疫ができるのかどうか、できたとしても、その免疫がいつまで効力を発揮するのか等は、まだ、不明のようであるが、ある程度の感染の発生と拡大は覚悟すべきであろう。このとき、最も大事な点は、取り返しが付かない事態、すなわち死亡者の発生をできる限り少なくすることにある。そのためには、医療体制を崩壊させないこと、よって、オーバーシュートを起こさせないことが必須である。重症者の数や医療機

関におけるベッド数などを考慮しつつ、コロナ感染の拡大をコントロール下に置くようにすることが最も大事である。手遅れになっては、手の施しようがなくなる。したがって、最初にやるべきことは、感染拡大をコントロール下に置くことを目指した感染防止対策である。これまでの日本のやり方は、評価されるべき一つの解決策であるような気がする。

次に、拡大しないという抑え込み（制御可能）の範囲内で、コロナと共生するという新しい考え方のもとで、経済活動を復活させて新しい状態に徐々に持っていくという順序である。経済が長期に止まってしまっただけでは、我々人類の幸福にとって、本末転倒であろう。経済が止まってしまうと、死亡者が他のいろいろな理由で大幅に増える可能性があり、人間の幸福の実現を追求するという我々の本来の目的に反することになるからである。

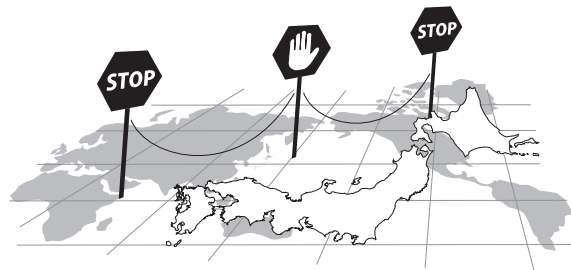
判断基準とそれぞれの役割

経済活動を緩めるには、もちろん、ブレーキの存在が前提である。状態を監視しつつ（監視のためのいろいろな指標があり得るだろう）、必要ならばいつでも制御可能な状態に戻すという対策（我が国では現在認められていないロックダウンから、自粛までいろいろな対策があり得るだろう）を実行する必要がある。この決断の仕事は、政治家の役割である。その判断のためには、基準が必要である。この基準は、本

来、科学者、政治家、民衆の合意で決められるべきものであり、状況によって変更する柔軟性が必要である。この基準が満たされているという条件下で、どこまでの感染拡大を許し、どこまでの経済活動を認めるか、これがバランスの問題である。今、科学者と政治家の役割が議論されているが、この関係は、本来、明らかである。科学的事実を明らかにするのは科学者の役割であり、その事実に基づき、社会の価値観、民衆の意見等を考慮して決断するのが政治家の役割である。一方で、被害に遭う一般市民も拡大防止に協力をするという役割を担っているのももちろんである。安全は、皆で創るものである。

安全性と生産性の関係

モノづくりにおける安全性と生産性の関係を眺めてみよう。生産活動において、リスクは、ゼロにはならない。安全性ばかり追求して生産活動が止まっては意味がない。現実には、安全性と生産性の両立を目指して対策を施す。しかし、ここにも順番がある。人が死傷するような機械設備を使用させてはならない。まず、機械設備の危険性を許容可能なリスクレベルまで下げなければならない。そのために、基本的には、ステークホルダーが参加、検討して、安全基準を定める必要がある。最低限として少なくとも安全基準を満たすことが大前提であって、その上で、はじめて、生産性を上げる、稼



働率を上げる等の努力をし、安全性と生産性の両立を追求することになる。安全基準を満たさないようになれば、直ちに生産性を下げたり、生産を止めたりしなければならない。鉄道運輸で言えば、乗客に迷惑をかけても列車を止めるべきである。安全性が許容可能なリスク内に管理されているという条件下で、はじめて、生産性を上げて両立を目指す。これもバランスの問題である。安全性と生産性の関係では、安全性をしつかりと確立すると生産も上がって両立するという事実がある。新型コロナ対策と経済活動の場合には、どうなるのだろうか。

利他主義の効用

先日新聞紙上で、コロナ禍に関して、哲学者のジャック・アタリが面白いことを言っている。「自分がマスクをすることは、他人の命を守ること、他人がマスクをすることは、自分を守ってくれていることである。これは、利他主義、すなわち、他人のための利益になるように動くこと、他人をよくすることは、自分もよくなることである。今、世界的に騒がれている BLM (Black lives matter: 黒人の命も大事だ)

問題についても同様である。黒人を豊かにすることは、自分を豊かにすることにつながる。コロナ禍や BLM 問題で、個人主義、分断主義に陥っては、争いだけが生まれる。いまこそ利他主義でいくべきである」という主張である。我々日本人には、納得感のある主張である。また、私の友人の行動科学の専門家は、自分の身は自分で守るという自己防衛が利他行動になると主張をしている。自己防衛は、すぐに得られる報酬であり、継続的に自己防衛行動をすることにより、遅れてくるが、社会的にも報酬が与えられる、すなわち、個々が共通して認識することで社会的にも感染対策が徹底されると言っている。

世の中は、バランスが大事であるとともに、最後は人間が倫理観、道徳観を身に付けるという人格の陶冶が基本となるようである。利他主義の考え方、どうも仏教とほとんど同じようであり、和の精神、東洋精神につながるような気がする。職場における安全・健康・幸福の世界の行くべき方向は、“和の安全”に向かうのではないのだろうかと思っている。

////////////////////////////////////